

in Ericaceae should be reconsidered.

Here I wish to express my cordial thanks to Prof. Kiyotaka HISAUCHI, Dr. Shunji Watari, and Dr. Hiroshi Hara for their valuable advices given during this study.

摘 要

ツツジ科の植物に於ては花粉の4個集合粒に粘結糸があるかないかにより分類学上の位置が論議されてきた。しかし筆者は従来粘結糸のないように思われていたハコネコメツツジ属、イソツツジ属、ホツツジ属、ヨウラクツツジ属、ツガザクラ属、ミネズオウ属、イワナシ属及び北米産のアメリカシャクナゲ属に於て粘結糸のあることを確認した(併しツツジ属の粘結糸に比しやや細く、そしてその数も少い)。以上の結果から見て、この性質をとりあげて族をわける方法は必ずしも妥当であるとはいえない様に思う。併しそれは分類学上の問題として分類学者におまかせすることにして、ここではこれ等のものに粘結糸がないというのは誤りであることを記録しておく。

○群芳図譜の内容と発行年代(久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: Contents and dates of publication of "Gunpo-zufu."

本書は画家和田英作、佐藤韓吉両氏が群芳図譜刊行会の名で世に出した10巻から成る折本の絵本であるが専門的にも役立つ本である。よつて、ここに各巻の発行日と其の内容を記録する。

1. 15 VI, 1919 (大正八) シャクヤク、スイセン、ツバキ、アブラナ、カキツバタ
2. 15 VII, 1919 ジンチヨウゲ、ハクモクレン、フジ、モミジアオイ、シャクナゲ
3. 15 VIII, 1919 シュンラン、カンラン、コウシンバラ、アヂサイ、ヒナゲシ、ヒマワリ
4. 15 IX, 1919 ススキ、キキョウ、オミナヘシ、ナデシコ、ハギ、フジハカマ、クズ
5. 15 X, 1919 シラン、アサガラ、シウカイドウ、トロロアライ、フヨウ
6. 15 XI, 1919 サザンカ、アケビ、リンドウ、ツハブキ、キク
7. 15 XII, 1919 ラモダカ、ヤマユリ、コスモス、ケシ、タチアライ
8. 15 I, 1920 (大正九) ソメイヨシノ、ウスベニザクラ、関山、松月、楊貴妃
9. 15 II, 1920 ケマンソウ、アヤメ、サクラソウ、タンポポ、ナズナ
10. 15 III, 1920 ボタン、ヤマブキ、レンゲソウ、ハマナス、キミカゲソウ